



OPERATOR'S MANUAL



# G17 SERIES

SEMI-AUTOMATIC COMBAT  
AIR PISTOL

## 取扱説明書

ご使用になる前に  
必ず最後までお読みください。



### 警告

対象年齢  
18歳以上

失明などの重大なケガの危険があります！  
誤った取り扱い・不注意な発射は、暴発・跳弾・銃の破損につながり、ケガ・物品破損・事故を招く危険があります。以上の事を未然に防ぐために、この取扱説明書を最後まで良く読み、注意事項・マナーを十分認識したうえで、当製品を安全に正しくお使いください。

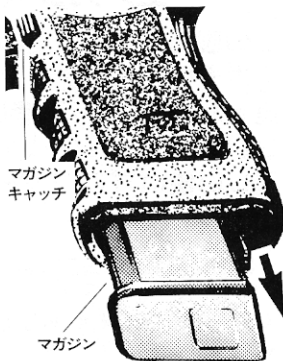
# 操作 I

## 1 【ガスの注入】

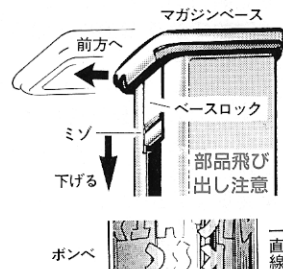
1. マガジンキャッチを押し、マガジンを抜きます。(ガス充てんが十分に行なえませんのでマガジンの温まりすぎに注意。改善の必要がある際は次ページを参照してください。)

### 注意

●マガジンを床などの堅い所へ落とすと変形し、銃を不調にします。掌で受け止めてください。また足の上に落してケガをしないようご注意ください



2. マガジンを逆さに持ち、ベースロックのミソに爪先をかけて下げ、マガジンベースを前方にずらします。すれ始めたらベースロックを下げるのを止めてください(下げたままだとベースがマガジン本体から外れ、ケガや部品粉失の原因になります)。

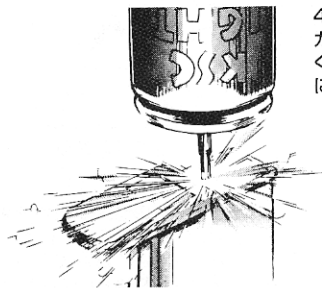


### 注意

●ポンペを押し下げたとたんに液状ガスが注入バルブ周辺から吹き出す場合は、ポンペとマガジンの注入バルブが一直線になっていない時ですので、微妙に角度を修正して正常に注入できる位置をさがしてください

3. 内部に見える注入バルブにポンペのノズルを差し込み、ポンペを押し下げてガスを注入します。この時ポンペとマガジンが垂直方向に一直線になるようにしてください。うまく注入できている時はシューという音がします。

4. 正常な注入後、満タンになったら液状ガスがふきだしますので注入を終了してください。しばらく放置しマガジンが常温に戻ってから使用します。



KSC  
マイティポンペ  
500  
¥1,300  
(500g入り)  
(フロンHFC134a)



### 警告

#### 《ガスポンペ使用上の注意》

●KSCマイティポンペ以外は使用しないでください。特に高压ガス等は故障の原因となるばかりでなく、破損・破裂といった危険につながることも予想されますので、絶対に使わないでください。また、指定以外のものはポンペの口金が合わず注入できないこともあります ●ガス圧を故意に上げるために暖房器具・熱湯等で加温することは絶対にしないでください。破裂の恐れがあり危険です ●注入時に液状ガスが身体や衣類につかないよう注意してください。気化冷却のため凍傷になる危険があります ●その他、マイティポンペに記されている注意内容も守ってお使いください ●上記の注意を守らずに使用して発生した故障や事故については当社は一切の責任を負えません



破裂注意 40°C以上厳禁 火に近づけない 熱湯で温めない 日光に当たらない 車中放置禁止

### 警告

#### 《リキッドチャージマガジン使用上の注意》

●リキッドチャージシステムのマガジンは、ガスを注入した直後、マガジン内が非常に冷却されます。そのため、ガス室の内圧が下がり、エアノズルの穴より微量のガスが漏れますが、常温になると正常に戻ります。このガス漏れは、非常に微量ですので、使用上全く問題はありません ●発射時にガスを放出する際、マガジンの油分が飛ばされてしまうので、常にオイルを補充し、ベストの状態でご使用ください。(メインティ

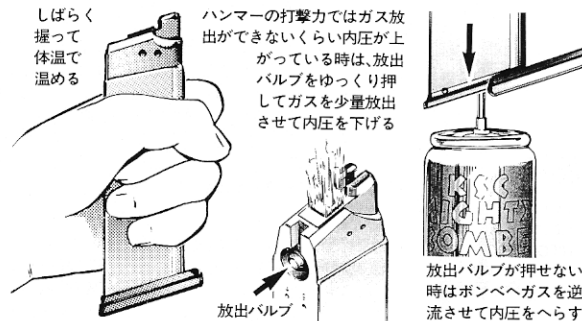
ナンスの項参照) ●周辺温度が20℃以下の場合(冬期など)や連続発射をした時は、ガス圧が下がり、作動が鈍くなる場合があります。これは故障ではありませんから、室温などで常温に戻せば調子は回復します。決してマガジンやポンペを故意に温めないでください ●ガスが入っているマガジンを、直射日光の当る所や火気の近くなど、温度の高くなる場所に置かないでください。故障の原因となる場合もあります。使用しないときは、マガジンからガスを全部抜いて空にしておいてください ●注入するガスは、KSC純正の“マイティポンペ”と表示されたものをご使用ください。他の種類のガスをご使用になると、故障の原因となるばかりでなく危険です。絶対に使用しないでください ●リキッドチャージシステムは、マガジンやポンペが低温になってもガスチャージできます。絶対に缶を温めないでください ●マガジンをむやみに分解すると故障の原因となります。また危険ですので絶対にしないでください ●マガジンはかなりの重さを持っていますので、落下させた場合、ケガや破損の原因となります。掌で受け止めてお使いください ●使用しない時は、マガジンからガスを全部抜いて空にしておいてください。常に圧力がかかった状態ですと、ゴム類等、内部部品の負担が増し劣化を早めることになります ●ガスを放出させる際は、気化冷却のために非常に低温となりますので、ガスが手や顔にかからないようご注意ください

## 注意 《マガジン性能安定のポイント》

KSCのガスブローバックガンは、生ガス(液状ガス)を吹きながらも正常な作動・弾道が得られるよう設計されていますが、極端に冷えすぎた場合、ブローバック作動時に送弾せずBB弾が飛ばないことがあります。このような時やガス注入時にマガジンの冷えが確認された場合は注入後に掌でしばらく握っているか、室温など20~30℃のところでしばらく放置して常温(=マガジンに触ってみて冷たくも熱くもない)状態にしてください(放置しておく際は子供の手の届かないところで行ないましょう)。また、逆に直射日光等が原因で温まりすぎてしまった場合ですが、状況によって改善策が多少異なります。①ガスが満タン(またはそれに近い状態)で温まりすぎた場合——異常な内圧の上昇により放出バルブの“はりつき現象”が起き、ハンマーの打撃力だけでは放出(=発射)できないことがあります。このような時は放出バルブを押し、ガスを少量放出して内圧を下げてください。この時、放出量が多いと全弾撃ちつくすだけのガスが残らないこともありますので注意しましょう。放出バルブを押せないほど圧力が高くなった時は、図のようにポンペを下にして注入時と同じ要領でマガジンを押しつけると、相方の内圧が同じになるまでガスが逆流し圧力の低下が得られます。こうすると放出バルブを押せるようになりますが、この場合、全弾分のガス量が残っていないことがあり、さらにマガジンが温まったままですとガス補充も十分に

は行なえません。いったんマガジンからガスを放出し(気化冷却を利用してマガジン温度を下げ)改めてガス注入を行ってから使用してください。②当マガジンは通常80発以上分のガス量が蓄えられます。性能の安定を図り、残りのガスを有効に使う意味から2マガジン分位を撃つたびにガスチャージしてください。この時、マガジンが温まりすぎていないことが大切です。残りのガスが入っている状態でマガジンが温まりすぎている場合、マガジン内圧がポンペ内圧より勝り、ガス補充のつもりで作業を行ってもマガジンからポンペへの逆流を招くだけで実際にはガス補充ができていなかったということもあります。そんな時は放出バルブを押し残りのガスをすべて放出したうえでガス注入を行ってください。③ガスが空の状態のマガジンが温まりすぎた場合——空とはいっても1気圧分の空気が入っています。これが熱により膨張し内圧が高まっているわけですので、ガス充てんが不十分にしか行なえないことがあります。空のマガジンでも放出バルブを押し外気圧(=大気圧)とマガジン内圧を同じくしてからガス注入を行なってください。④異常なほどマガジンが熱くなってしまった場合、ガス放出・ガス注入をくりかえし、気化冷却によってマガジン温度を常温(冷たくもなく熱くもない状態)にしてから使ってください。なお、この銃の場合、前述の放出バルブの開放は、放出バルブ頭部を押すことで行なえます。最後に以上の内容をまとめると以下の3項に集約することができます。

- 銃の性能を100%引き出すにはマガジンのノウハウを身につける
- 使用時はマガジン温度をつねに常温状態(20℃以上)でキープする
- 「1チャージ2マガジン」が性能安定のポイント



※寒期は気化が遅く圧力も低いため、夏場より液状ガスが多く注入され気化スペースを狭くし、最初の数発は生ガスがでてしまう傾向が強まります。満タン注入後はガスを少量放出し、気化スペースを作ってください

## 操作 II

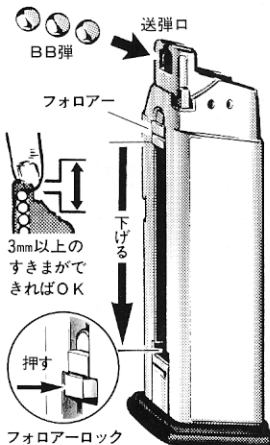
### 2 【BB弾の装てん】



**警告**

#### 《BB弾使用上の注意》

●KSC製エアガン(ガスガン含む)は、全機種KSC製BB弾に合わせた設計・調整が行なわれています。言い換えれば同BB弾使用時に最も高性能が発揮できるということにもなります。以上の理由から、BB弾は必ずKSC製をお使いください。指定外のBB弾、キズがあったり変形したBB弾、改造を施したBB弾は、性能を著しく低下させるばかりか、正常な発射ができなかったり様々な作動不良の要因ともなります。ご注意ください。(当社への修理依頼品のうち過半数は他社BB弾使用に起因するものです。また、そのうちの半数近くはKSC製BB弾に変えただけで正常作動してしまうというのが実状です。) ●KSC製以外のBB弾を使用して発生した故障や事故については、当社では一切の責任を負えません ●BB弾は使用後必ず回収してください。幼児が飲み込んで窒息したり、誤って踏んで転倒し大ケガをするなど、思わぬ事故につながる危険性があります。また、屋外で回収を怠ると、環境破壊にもつながります



1. フォロアーを押し下げます。一番下まで行くと自動的に止まります。

2. 23発以内のBB弾を送弾口から装てんしてください。無理に指定弾数を超えて詰めるとラバーチャンバーへの送弾時に破損します。マガジンへの装弾が終わったら、リップと一番上のBB弾とのすきまが3mm以上あることを必ず確認し、無い場合は1発抜いてください。

3. フォロアーロックを押すとフォロアーは上昇しBB弾をホールドします。この時、BB弾が飛び出さないよう送弾口を指でふさいでおきましょう。BB弾が少ない時や入っていない時にフォロアーロックを解除すると、おもいきりフォロアーが上昇しリップやBB弾にぶつかり破損を招きます。このような時は指先をそえて、ゆっくり上昇するように配慮してください。

#### ●装弾済マガジンへのガス注入時の注意

BB弾が入っているマガジンにガス注入をする時は、フォロアースプリングが圧縮されているため、万一マガジンベースが外れてしまうと部品が勢い良く飛び出してしまいます。本人や周囲の人にケガをさせてしまったり物品破損につながりかねません。ベースロックは解除されしだい下げのを止め、マガジンベースをずらす際は外れてしまわないよう細心の注意をはらってください。

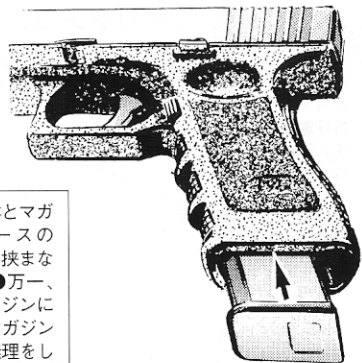


**注意**

●指定数をこえるBB弾を無理につめこむと、破損の原因となりますのでご注意ください ●気温の変動等によりマガジン内の圧力が上がりすぎると、ハンマーの力ではガスを放出できなかったり、弾道が乱れる場合があります。そのような時は、BB弾を抜き、ガスを多少放出させ(7ページ参照)ガス圧を下げてください

### 3 【マガジンの装着】

マガジンを銃本体に戻します。この時、マガジンキャッチがカチンと音をたててかかるのを確認し、念のため一度マガジンを下に引いて抜け落ちないことを確かめてください。



**注意**

●銃本体とマガジンベースの間に手を挟まないようご注意ください ●万一、指定数をこえるBB弾がマガジンに装てんされている場合は、マガジンが正しく装着できません。無理をして装着しようとすると銃が破損します。このような時はけっして無理をせず、BB弾を減らしたうえで装着してください

破損の原因になります。マガジンをおもいきりたたきこまないでください。



## 4 【初弾の送りこみ】

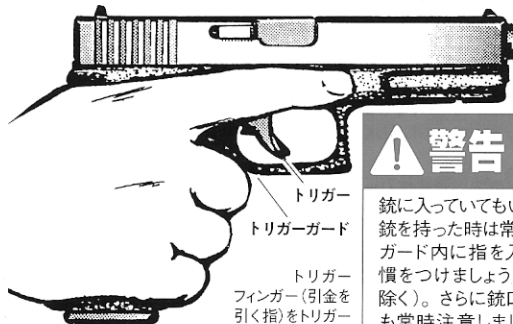


スライドをいっばいに引いて指をバツとはなすと、初弾がチェンバー(薬室)に送りこまれ、ハンマー(撃鉄)が起きた状態になります。  
★この操作を忘れると、銃は作動しないか、作動しても初弾は発射されません。

### 注意

- 指をそえたりしてスライド前進を遅らせると送弾不良の原因になります。指をバツと離してください
- 誤射・暴発を防ぐ意味で、射撃の直前まで薬室に

BB弾を送りこまないでください

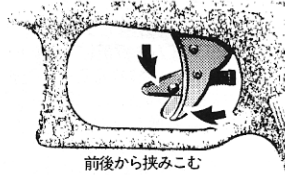
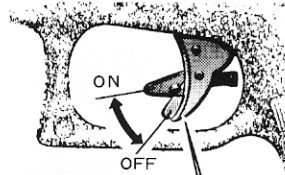
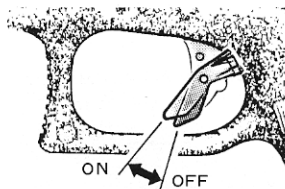


### 警告

- BB弾・ガス・マガジンが

銃に入っている場合、銃を持った時は常にトリガーガード内に指を入れない習慣をつけよう(射撃中は除く)。さらに銃口の向きにも常時注意しよう

## 5 【セフティ(安全装置)】



### トリガーセフティ

実銃どおりの安全装置です。射手がトリガーに指をかけた時のみ、自動的に安全装置が解除される構造になっています。

### AGセフティ

業界の規約により手動式=マニュアルセフティの設置が義務づけられているため、それに準じて新設した安全装置です。

ON→トリガー下端とセフティ下端の間に爪先もしくは細棒状の物を挟み、時計回り方向に持ち上げます。多少抵抗はありますが、パチンと音をたてて出てきます。

OFF→親指でトリガーの背面を、人差し指でセフティの前面を挟み、圧縮するとパチンと音を立てて解除します。なお、人差し指だけで強引に、引金を引くような方法では行なわないでください。暴発させる恐れがあり危険です。必ずトリガー背面に親指を入れてください。

### 警告

- セフティを操作する時は、不調や故障の場合を考え、万一暴発しても事故や器物破損がおきないように、銃口の向きに注意し、さらに跳弾しない配慮をしてください

●セフティ操作中はトリガーに指をかけないでください。発射をする時以外は、つねに安全装置をかけておく習慣をつけるようにしましょう

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

# 操作 III

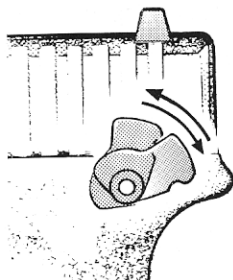
## 6 【発射】

★快調作動はマガジンの温度コントロールと1チャージ2マガジンがポイントです。



セフティをかけてある場合は解除したのち、トリガーを引いてください。トリガーを引くたびにガス圧によるBB弾発射とスライド後退(ガスブロウバック)が行なわれます。★スベアマガジン(¥3,200)を活用するといっそうシューティングが楽しめます。

### ●ハンマー内蔵型シングルアクション



快調な作動性を得るため当モデルではハンマー内蔵式メカニズムを採用しています。外部から直接ハンマーに触れることができないため、ハンマーをコックしたい時はスライドを前後動させる必要があります。装弾済みマガジンを装着したままこの操作を行なうと薬室に複数のBB弾が送り込まれてしまいます。回避したい時はマガジンを抜いてからスライドの前後動を行なってください。なお、ハンマーがコックしているか否かは、トリガー位置(前進ポジションならハンマーはコック、後退ポジションならハンマーはダウン)で確認することができます。



★性能どおりの命中精度を引き出すには、しっかりしたグリップホールドが不可欠です。図のようなツーハンドホールドが最も効果的。右手は突き出し左手は体の方へ引きつけるようにして握るのがコツです。



### ●良くないグリップホールド

◀左手親指の位置に注意! ちよつとでも親指が上へズレると、後退するスライドやハンマーでケガをする恐れがあり危険です。どのようなホールドの時でも親指のポジションには注意をばらってください。

### ⚠ 警告

●銃を横にしたり逆さにして撃たないでください。液状ガス(=生ガス)がそのまま出てしまいます。この状態のガスは気化冷却のため非常に冷たく、体に触れると凍傷になる可能性があります。さらに、銃内部の特にゴム部分を凍らせてしまう場合もあり、劣化をいちじるしく進行させます。ご注意ください

### ⚠ 注意

●銃後方にブロウバック時の排気を感じる場合があります。また、パワーソースとして使用しているガスの特性上、寒冷期やマガジンが冷えている場合は、作動不良が起こることもあります(6ページ“リキッドチャージマガジン使用上の注意”7ページ“マガジン性能安定のポイント”参照)。これらはいずれも故障ではありませんので、ご了承ください ●ガス残量が少なくなると、作動が悪くなり性能が安定しません。早めにガスを補充してください

## 警告

## 《発射時の注意》

不注意な発射は失明やケガ等の危険があります。発射の際は跳弾にも十分注意し周囲の安全を必ず確認してください

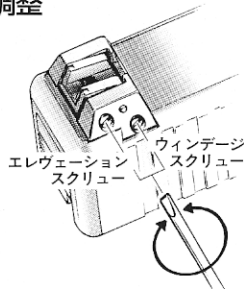
- スライドが勢よく後退します。顔を近づけないでください。また、跳弾や万一の破損による部品の飛散を想定して、シューティンググラスなどのアイプロテクション（目を保護するもの）を必ず着用し、肌を露出しない服装になるなどしてケガを未然に防ぐ方法をとってください
- 倒れてくるハンマーで指などを挟まれないよう注意してください
- 撃つ・撃たない、BB弾が薬室に入っている・入っていないにかかわらず、どんな時にも人・動物・かわれやすい物に銃口を向けない、または銃口側に向かない（ない）ようにしてください
- 同上の理由から、万一の暴発を考え、銃口をのぞきこまないでください
- BB弾の到達距離はその時の気温、風向に多分に左右されますので、より遠く、より広範囲にわたって十分な注意をはらってください
- イタズラに他人の物、公共の物を撃ったりすることは絶対しないでください。それは犯罪です
- 発射する意志があり、かつ銃口が標的に向いている時以外は、絶対に引金に指を触れないでください
- 射撃を楽しんでいる以外の人がいる時や屋外の場合は、近所迷惑・誤解のないよう十分注意してください
- 壊れやすい物を標的にしたり、標的の周辺に置かないでください
- 跳弾は思わぬ方向に飛ぶ可能性があります。可能な限り広範囲に注意をはらってください
- 複数の人で射撃を楽しむ場合は、全員にアイプロテクションの着用を義務づけ、射撃前には他の人に発射することを伝え注意をうながしてください
- 必要以上の空撃ち（ガスやBB弾を使わない射撃操作）は部品の摩耗・破損につながりますので、しないでください

## ●アジャスタブルリアサイトの調整

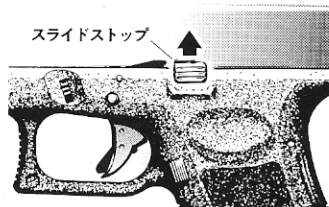
G34に標準装備されているアジャスタブルリアサイトは、他のG17シリーズ機種にも装着可能です。右側面のスクリューヘッドを精密ドライバー（-）で回すことで狙点の調整ができます。

**ウィンテージ**（左右）：前側のネジを、着弾を右にずらしたい時は右に回し、左にずらしたい時は左に回します。

**エレヴェーション**（上下）：後側のネジはサイト高の調整用。着弾を上げたい時はサイトを上に、下げたい時は下に移動させます。



## 7 【ホールドオープン】



全弾撃ちつくすとスライドストップがかかり、スライドは後退位置で止まります。スライドストップを下げるとスライドが前進し通常位置に戻ります。替えマガジンがある時は、オープン状態のまま空マガジンを抜き、替えマガジンを装着し、スライドを引くと初弾が送りこまれ再度発射準備完了です。

## 注意

●スライド閉鎖時に指を挟まないよう注意してください。この時、トリガーに指がかかっていることと、銃口の向きにも注意をはらってください

●寒冷期やガス切れ・連続発射等によるガス圧不足、メンテナンス不足、グリップホルドの甘さなどが原因となって、スライドストップがかからない時がありますが、これは故障ではありません。該当する原因を改善すれば正常にもどります

## 8 【発射が終わったら】

マガジンを抜きスライドを引いてチェンバー内に残弾がないことを確認。ある場合はスライドストップをかけ、銃口側から棒状の物で押し出します。クリアー後スライドを閉鎖し、内蔵ハンマーをコックオフするため銃口の向きに注意して空撃ちしてください。



## 警告

●撃ち終わった時、撃つ意志がない時には、ただちに薬室からBB弾を抜き、決して入れたままにならないようにしてください（誤射・暴発につながる可能性があります）

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃



# ホップアップメカニズム

ホップ調整をマスターして、銃の性能を最大限に引き出しましょう。



## 【ホップアップの現状】

当製品には可変ホップアップメカニズムが標準装備になっています。このメカニズムは、発射時のBB弾に意図的に一定方向（上向き）の回転を与えることで揚力を生ませ、それにより、より遠くへ水平軌道のまま（あるいは多少の放物線を描かせて）到達させることを目的に開発されています。

一般的に言われているホップアップ機能の特徴は以下のとおりです。

●無暴なパワーアップという手段を使わずにBB弾を遠くまで飛ばすことができる ●弾速はノーマルに較べ遅くなる場合もある ●タイトな機構であるため、BB弾のバラツキ、気温、湿度の変化が、ホップアップ効果の変動要因となる。

以上のように「遠くへ飛ばす」という大きなメリットと「BB弾・ガス圧といった不安定要素が、（ノーマルガン以上に）性能に影響を及ぼす」というデメリットを併せ持つのがホップアップガンなのです。ホップアップガンの性能を高水準で安定させるにはデメリットを最小限にすればいいわけで、それにはいくつかの条件を満たす必要があります。



このマークが目印!



## 注意 《ホップアップ性能安定の条件》

### ①BB弾を選ぶ。

同一種のBB弾で、真球度が高く、径にバラツキのないものを選び、同時に汚れ・キズ・変形等がないことをチェックのうえ使用する。なお、0.2~0.25g弾の使用がもっとも効果的（軽量弾はバラツキ等の影響が顕著に表れ弾道が安定せず、重量弾だと飛距離が伸びない）。

### ②パワー（ガス圧）を極力一定に保つ。

ボンベやマガジンの使用時の温度が一定（保管時も同様）であることが望ましい。使用の際は替えマガジンなどを用意し、使用済みマガジンは休ませてガス圧の回復を図るといった方法でもデメリットを最小限にするにはベター。

### ③ラバーチェンバー、銃身内部の状態を同一条件下に維持する。

オイルのつきすぎ、不良BB弾の使用やホップのかけすぎによる弾つまり等に起因するキズ、摩耗した部品の使用などもマイナス要因となる。メインテナンス時の注油は微量多頻度で行ない（17ページ参照）条件を安定させる意味から常に注油量を一定にする、ラバーチェンバー・インナーバル内のオイルや汚れを定期的にクリーニングする、BB弾・ラバーチェンバーやインナーバルにキズ・摩耗がある場合は早めに取り換える、といった配慮が必要。

### ④大気の状態が安定している

いうまでもなく無風が望ましい。気温差も上記②に関連してホップのかかりぐあいに影響をおよぼすので配慮が必要。

※以上の4条件を満たせばその銃が持つホップアップ性能を100%引き出せる訳ですが、シューティングを楽しみながら、それらの微細な条件を常に高レベルでクリアすることは現実的には困難です。そこで考え方としては、80~90%の性能レベルを維持しつつホップアップを楽しむ、具体的にいえば10発中1発前後の弾道の乱れなら（もともと条件をクリアしていないのですから）許容範囲と考え割り切って楽しむ、というのが一般的のようです。では、ホップアップの現況説明はこれくらいにして、本製品のホップアップに関して説明してゆきましょう。

※KSCのホップアップ搭載銃はすべてKSCマイティBB弾に合わせて設計し、同BB弾によって最も性能が発揮できるよう調整されています。銃性能を生かす意味からもKSCマイティBB弾をお使いください。なお、当製品の場合、寒冷期には0.2g弾、その他の季節には0.25g弾の使用が命中精度の点では有効です。

(0.2g弾=2,400発入り¥700、0.25g弾=1,500発入り¥750)



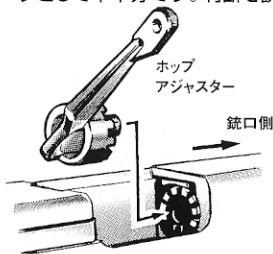


## 【調整と試射】

★ホップアップ調整には20m以上の空間が必要です。

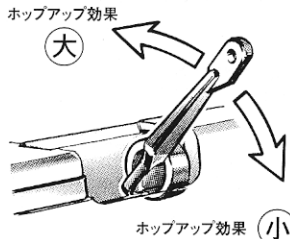
**1** まず、銃を撃ってみます（操作の項参照）。ホップのかかりぐあい  
が希望どおりの弾道を描いているかどうかをチェックします。  
この時、10～12発撃ち平均的な弾道やグルーピングにより判断  
してください（2～3発ではデータとして不十分です。判断を誤  
る可能性があります）。

**2** マガジンを抜きスライドを  
作業しやすいところまで  
後退させ、エジェクションポ  
ートからホップアジャスター  
を差し込み、マルチアジャ  
ストリングの歯車状の突起  
の凸凹とアジャスターの  
凸凹が全周ともきれいに  
噛み合うように装着します。



ホップアジャスターの中心軸と、  
ラバーチェンバーやマルチアジャ  
ストリングの中心軸が同一線上になります。

**3** 試射の結果、ホップのかか  
りが弱い時は左回転、強い  
時は右回転させ、ホップ調  
整をしてください。この時、  
アジャストリングとアジャ  
スターの全周の凸凹がき  
れいに噛み合い、かつ密着  
していることを確かめた上  
で操作してください。



調整は左右合計100度位の  
範囲内で可能（回し過ぎ注意）。

アウターバレル薬室部入口上部の内曲面に、  
ホップアジャスターの円筒部上面を密着させ、  
それをガイドにして回すと正しく回せます。

**注意** ●歯車状突起  
が全周きれいに  
噛み合っていない時や密着していない時など  
のように正常装着でない場合、アウ  
ターバレルやその他の部品に変形  
やキズを付けてしまう可能性があります。  
十分注意して操作してください。

## ★調整のポイント

ホップ効果	BB弾の弾道現象	改善方法 (アジャストリングの調整)
無効	自重による自然放物落下	さらに左へ
小	水平飛行距離が自然放物 落下よりはのびる	少し左へ
	水平飛行距離が最長に	そのまま
大	水平飛行から上昇に移り、 最後に放物弧で落下 (この現象の直前状態が最 適のチューニング)	少し右へ
	極端なホップ、極端なドロ ップ、停弾、発射サイクルのバ ラツキ等が起きる	さらに右へ
かけすぎ		

**4** 調整→試射→調整と、以後、希望の弾道が得られるまでくりかえ  
します。

### 注意

●『調整のポイント』の表の『かけすぎ』の現象が起き  
た場合は、すみやかに射撃を中止し改善方法を実行し  
てください（ラバーチェンバーをはじめ銃の摩耗・破  
損をはやめることになります） ●弾つまりの時はアジャストリングを  
ホップ効果がきかない所まで戻し、その上でBB弾を取り去ってください  
（かけすぎの状態＝つまりラバーチェンバー内が狭いため停弾したわけ  
ですから、この状態で強引にBB弾を抜き取るうと確実にラバーチェ  
ンバーを痛めてしまいます） ●誤った調整方法・分解・改造による故障・  
事故等については当社では一切の責任を負いません。また、その結果と  
して生じた修理・調整費用はすべて有料となります

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

## メンテナンス (手入れ)



### 警告

●手入れを怠ると、たとえ買ったばかりの品でも作動不調をおこします。最終的には銃の耐久性にも影響しますので、こまめに行なってください ●メンテナンス中に工具類でケガをしないようご注意ください



### 注意

### 《使用前点検》

何度も使っているうちにピン類が出てきたりスクリュー類がゆるんできたりすることがあります。弾が飛ばなくなる・閉鎖不良が起きるといった不調症状が表れ、故障・部品紛失の要因となりえますので定期的にチェックしましょう。特にブリーチスクリュー(パーツリスト参照)は、ガスブローバック時の振動により、ゆるみやすい傾向にあります。使用前に必ずチェックし、ゆるんでいる場合は「増し締め」してください。『ネジロック』などのゆるみ止め剤を少量つけ固定する方法もあります。使用の際はその商品の使用方法・注意書をよく読んでからお使いください。

※上記スクリュー類がゆるみはじめると、BB弾がポロツとしか飛ばなくなる、弾道がバラつく、BB弾の送り込みが悪くなる、スライドの閉鎖不良が起きる、ブローバックのスピード低下、などの不調症状が生じます。そのまま使い続けると症状は悪化し、さらには関連部品の破損につながりますので、異状に気付いた時にはすみやかに点検し改善してください。なお、ガス切れ/ガスの冷えすぎた時にも同症状が表れますので、そちらもチェックしてください(6~7ページ参照)。



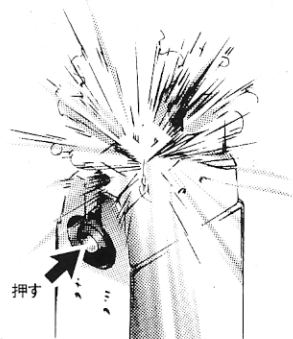
### 注意

### 《使用オイルについての注意》

オイルはプラスチック用で「第4石油類」と明記されたテフロン系/シリコン系のものをお使いください。以上の表示がないものは絶対使わないでください。モデルガン/エアガンで使用されているゴム類や各種プラスチックのなかのある種の材質を侵してしまうものがあることが、当社の実験結果で確認されています。なかでも第2石油類のタイプ、金属用オイル(マシン油、モーターオイル、CRC556などのスプレー潤滑油、錆汚れ落としなど)、100%といって良いほどヒビ割れなどの劣化の原因となります(〇〇石油類の表示のないものも、内容成分が不明であることからお使いにならないほうが無難でしょう)。少なくともKSCガンオイルは、大半の他社製品を含め現時点でモデルガン/エアガンに使用されているほとんどのプラスチック材料をテストし異常のないことを確認済みです。安心してお使いください

## 【マガジン】

マガジン後部の放出バルブを押し、ガスを抜くことができます。つねにガス圧がかかった状態でずとシールドをしているゴム類に負担がかかり、劣化を早めることとなりますので、発射後は、残ったガスを必ず抜いておきましょう。

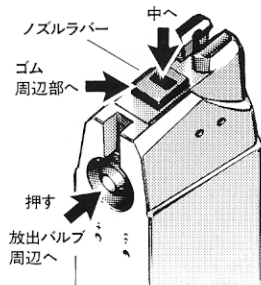


### 警告

ガス放出時は、液状ガスが手や顔などに吹きかからないよう放出口の向きに注意してください。もちろん他の人や動・植物、電気製品、凍ると破損するものに対しても同様です。瞬時の冷却・凍結による凍傷・故障の原因となり危険です

放出バルブを押しした状態で放出口(ノズルラバー)からマガジン内部へKSCガンオイルを注入してください。また、ノズルラバー上面部や、放出バルブへも注油してください。  
※いずれも少量でOKです。5マガジンくらいを目安に行なってください。

### KSCガンオイルを



### 警告

### 《KSCガンオイル使用上の注意》

火気の近くで使用しない、40℃以上のところに置かない、など、KSCガンオイルの缶に表示されている注意内容をよく読み、正しくお使いください。室内の換気、近くにオイルがつくとまぜい物がないことなどにも注意してください



## 【銃本体】

### ●スライド&ブリーチ部



注意

ピストン内部に粘性の高いグリス類等を使用すると100%不調・破損の原因になります。

KSCガンオイル250  
(シリコン配合潤滑スプレー)  
¥1,200(250g入り)

●ブラから金属までオールマイティーに使えます

スライドとシャーシのレール部、ブリーチのシリンダー用レール部は、定期的にKSCガンオイルを少量吹きつけ、作動が滑らかになるようにしてください。

### ⚠注意

●ラバーチェンバー内にはKSCガンオイル等を使用しないでください。オイルが付着しているとBB弾がスリップして正常な弾速・弾道で発射できないことがあります。

また、ラバーチェンバーの材質の関係から、オイル成分によってはゴムが膨張してくる場合もあります。以上の理由からマガジン内部、ピストンユニット部の注油は1回の注油量を必要最低限とし、定期的にごまめに行なってください(多量少頻度ではなく微量多頻度が、注油(=メンテナンス)とラバーチェンバー内部条件を最大公約数的にベターに保つポイントとなります)。なお、弾道等に影響がでるほどにオイル分がつきすぎた場合や、その日の使用をやめたあとは、ティッシュや綿棒等でチェンバー内を必ずクリーニングしておいてください ●銃身内が汚れていると命中精度に悪影響をおよぼします。綿棒やティッシュなどで定期的にクリーニングしてください

### ●その他の可動部品

★シャーシのハンマーハウジング部など可動部品の連係する部分、スプリング類などにも時どき注油してください。

★長時間使用しない時は、特にサビの出る可能性のあるスプリング類などスティールパーツを中心に、念入りにメンテナンスしてください。

### ●銃のクリーニング

#### ⚠注意

メンテナンスはガンオイルを吹きつけるだけでOKというわけではありません。ゴミ、汚れ、水分の付着は、飛距離や命中精度の低下、作動不調の原因となりうるばかりでなく、サビの発生、部品劣化の加速にもつながります。つねにクリーンな状態を保ち、愛用の銃をいつも最高のコンディションにしておきましょう

#### ⚠警告

●エアガンは3ページ目でも触れたとおり、悪意の改造を防止するために必要最低限の強度しかありません。使用部品の材質は主にプラスチックや強度の低い金属(亜鉛合金など)です。耐久性には限りがありますので消耗品とお考えください。特にガスブロウバック作動に関連する部品は磨耗や劣化がはげしく、使用回数が増えるほど寿命は短くなります ●踏んだり、幼児がのみこんでしまうといった万一の事故を考え、BB弾、部品、メンテナンス用品は放置しないでください ●パワーアップなどの危険改造は絶対しないでください。社会に迷惑を及ぼすばかりか、銃の破損確率も高まり本人がケガをする可能性も増大し危険です。なお、誤った使い方や改造が要因となって発生した故障・事故・事件につきましては、当社はいっさいの責任を負いません



使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

# 分解 (組み立て) |

エアガンは通常の場合、分解の必要はありません。弾づまりやメンテナンスの時以外は分解しないでください。

## 警告

●作業中に工具類や部品(特にスプリング、ボール類は飛び出してくる可能性があります)でケガをしないよう注意してください。部品・工具・メンテナンス用具は、たとえ1個でも子供の届くところには放置しないでください。ケガや、誤って飲み込んでしまい窒息するなどといった重大な事故につながる可能性があります。●分解・組み立ての際は部品をなくさないよう注意してください。●無理な分解(組み立て)や、当説明書に説明している以外の方法は、組み違いによる誤動作・部品の破損・変形につながりますので、やめてください。

## 【フィールドストリップ(通常分解)】

### 〈組み立てる時は〉

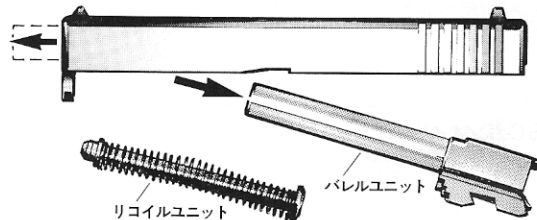
基本的に分解の逆手順(項目番号の大きい数字から小さいほうへ逆行)で行なってください。

**1** マガジンを抜き、スライドを引いて薬室に残弾がないことを確認してください。(ハンマー内蔵型メカを採用しているため、分解するためにはハンマーをコックしておく必要があります。一度は必ずスライドを引いてください。)

**2** スライドロックを左右両側から親指と人差し指で挟み、左右均等に押し下げます。ロックが外れるとスライドアッシーが数ミリ前進します。

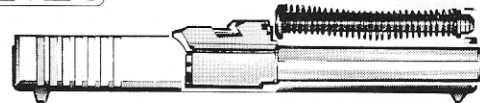


**3** スライドアッシーからリコイルユニットを外します。次にアウターバレルとスライドの噛み合わせをエジェクションポート側から下方へ押し外し、バレルユニット全体を前方にずらしてピストンとの連結を外してから斜め後方に引き抜いてください。



### 組み立て

部品飛び出し注意



図のようにバレルユニットとリコイルユニットを定位位置にセットし、ハンマーがコックしていることを確かめたのち、フレームアッシーをスライド後方から組み入れます。突起部分に引っかからないよう注意しながらずらしてゆくと自動的にスライドロックがかかり、組み立て終了です。

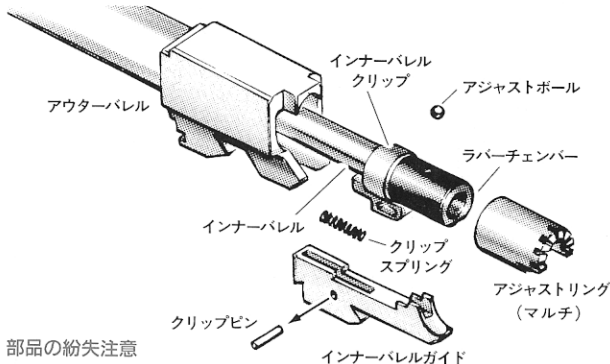
※ここまでで通常分解終了です。これ以上の分解は破損パーツ交換時以外、必要ありません。



## 【別売アクセサリ装着時の分解】

### ●インナーバレルのはずし方

★今後、バレル関連のアクセサリが開発されることが予想されます。その時は分解の必要性が生じる場合もあるかもしれません。ある意味で性能を左右するデリケートな部所ですので、一応、分解方法を記しておきます。(ノーマルのまま使用する限りは分解の必要はありません。)

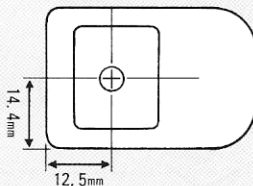


部品の紛失注意

まず、アウターバレルからインナーバレルユニットを取り出します。クリップピンを抜き、インナーバレルガイドを下方に外せば、あとはアジャストリング、アジャストボール、ラバーチェンバー、インナーバレルクリップの順に取り外せます。組み立て時は、向きや位置をまちがえないよう逆の手順で行なってください。

### ●マガジンベースに注入孔をあけたい時は

外観のリアルさを損なわないためにスライド式を採用しています。ワンタッチで注入できるように孔をあけたい方は右図を参照のうえ直径5mm以上の穴をあけてください。



### ●ウィルコックス社ウェポンマウント、 ITI社フラッシュライトM3装着時の注意

両社製品とも銃本体との連結部の形状は単に前側から差し込んでロックするだけの形式になっています。装着が簡単という反面、ガタツキがあっても(両側から挟んで締め込むタイプのように)調整できないというデメリットも持っており、特にレーザーサイトの場合は狙点が狂い致命的となります。そこでKSCではG17のレイル部をあえて「きつめ」に設計しました。これにより前述の対応と同時に、製品成形時の条件/気温差による製品収縮率の変動が生み出すガタツキの防止も兼ねています。もしお手許の製品が「きつい」場合はブラロッドやプラスチックハンマーを使って何度も前後動させなじませてください。やすりなどで最初にびつたりの調整をすると着脱をくりかえしてゆくうちにガタツキが出てきてしまいますので、手でやっと着脱できるくらいで止めておくことが理想的です。



使用前

マナー

操作

ホップ

保管

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

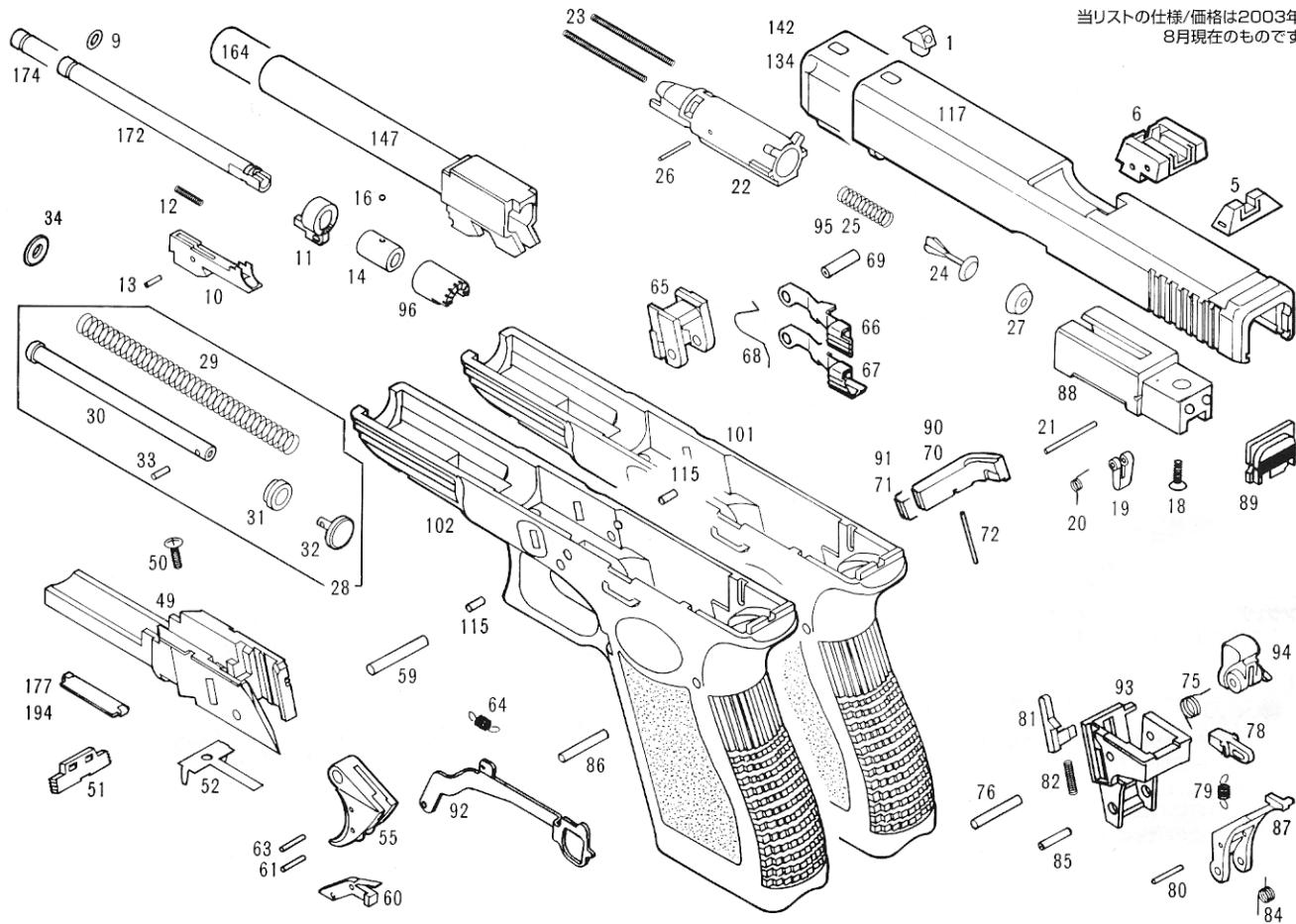
通販

実銃



# パーツリスト I

当リストの仕様/価格は2003年  
8月現在のものです。



KSC G17 SERIES

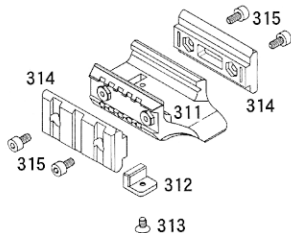


# パーツリスト II アクセサリー

174	インナーパレル115 (5.3inクラス)	¥ 1,300
177	G17シリアルプレート (CSK588US)	¥ 200
194	G34シリアルプレート (CKS947US)	¥ 200
200	ローダーファネル	¥ 300

## ■マルチアンダーマウント

311	マルチアンダーマウントベース	¥ 1,000
312	マウントロック	¥ 200
313	マウントロックスクリュー	(M3×5) ¥ 50
314	マウントレール(×2)	1コ ¥ 500
315	マウントレールスクリュー(×4)	1コ ¥ 50



## G34スライドHW用 (NO91)



★ABS用と区別するため、HW用マガジンキャッチにはイラストの位置に丸い凹みがあります。なお、材質は他のモデル同様ABS製です。

## ■マガジン

201	G17ミディアムマガジンケース	¥ 2,500
204	G17ロングマガジンケース	¥ 3,000
207	マガジンリップ	¥ 700
208	マガジンリップピン	¥ 50
209	ノズルラバー	¥ 300
210	マガジンフォロアセット	¥ 400
213	ミディアムフォロアースプリング	¥ 400
215	ロングフォロアースプリング	¥ 600
216	放出バルブ	¥ 800
217	マガジンシール	¥ 200
219	ミディアムインナーベース	¥ 800
222	ロングインナーベース	¥ 1,000
224	インナーベースピン(×2)	1コ ¥ 50
226	注入バルブ	¥ 300
227	ステップマガジンベース	¥ 600
234	ミディアムベースロック	¥ 300
235	ベースロックピン	¥ 50
236	ガードプレート	¥ 200

当リストの仕様/価格は2003年8月現在のものです。

